

新 除 草 剤

アンモサイド

DE-642-A粒剤

石原産業株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、2・4・6-トリクロロフェニル-4-ニトロフェニルエーテル(CNP)と、2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸アリル(AM)との混剤である。製剤はCNPを7%とAMを1%含む粒剤である。

本剤はノビエその他1年生雑草に有効なCNP(MO-338)と、マツバイ・一年生広葉雑草に有効なAMを混合した水稻本田初期土壌処理用除草剤である。各単剤に比べて、広範囲の雑草に対し高い殺草効果を示す。すなわち、ノビエその他一年生雑草及びマツバイに有効である。特に発芽時または発芽初期が有効で、生育の進んだものには劣る傾向にある。

水稻に対する薬害症状は、低温・漏水条件下ではロール葉・生育抑制・株開張がみられるが後に回復し収量にまで影響することは殆んどない。

魚貝類に対する影響はない。また人畜に対しても殆んど無害である。

使用方法：普通期栽培の水稻に対して、暖地では移植後4～7日及び中耕後、寒地では中耕後に湛水下で土壌処理をする。散布量は10アール当り製品3kgを均一に散布する。

移植後処理では、稲が活着してから散布し、雑草の発芽時～発芽初期に処理する。なお、北海道においては使用しない。

土壌については日減水深3cm以下の壤土～埴

土において使用する。本剤は粒剤であるので効果を十分に発揮させるため、散布時からその後3～4日間は水深を3～4cmとし、かけ流しは避ける。また、軟弱苗の使用・稲体がぬれている場合には使用しない。

MO-401粒剤

三井化学工業株式会社

性状・作用特性：本剤の主成分は、2-メチル-4-クロロフェノキシ酢酸(MCP)と、2・4・6-トリクロロフェニル-4-ニトロフェニルエーテル(CNP)との混剤である。剤型はCNPを6%と、MCPを0.8%含む粒剤である。

CNP(MO-338)の作用はよく知られている通り接触作用の強い非ホルモン型移行型土壌処理剤で、水田一年生雑草の発芽前～発生始期に高い殺草効果を示すが、コナギ・マツバイに対する効果の劣ることが欠点である。この欠点を補うためにMCPを加えて有効対象雑草の範囲を広げたものである。

雑草種類に対する選択殺草性は、一年生イネ科・広葉雑草及び多年生雑草のマツバイと殆んどどの雑草に対して高い効力をもつ。しかし、生育のすすんだ雑草にはやゝ劣る傾向にあるので処理適期幅はやゝ狭いとされる。

一方、土壌中の移動性は小で、残効期間は湛水条件下では比較的長い。また温度条件による効力差は少ない。水深によりノビエ殺草効果は異なり、深水の方が効果大である。

水稻に対する薬害症状については、極端な深